

ソーセージノキ

本樹は樹高約4m、幹回り周約20cm。1990年5月8日に環状はく皮した。1990年9月に五花序を着け、9月11日に開花を始めた(表2)。

表2 ソーセージノキの開花結果

	開花開始日	花数
第1花序	9月11日	10個
第2花序	9月17日	8個
第3花序	9月17日	5個
第4花序	9月18日	14個
第5花序	9月22日	20個

一花序の開花期間は、約6~10日間であった。花は夜7時頃から開き、朝には落下した。果実を得るために、交配を他花授粉、自花授粉合わ

せて約10花を試みたが、結実にはいたらなかった。花の雌蕊の先端は2又に分かれ、交配するとすぐに閉じることを観察した。夜間開花するので入園者に見てもらえなかったのが残念であったが、開花状況の写真と説明文を掲示して、入園者にアピールした。



モクセイ科林再整備 (中間報告)

吉岡敏彦

休憩展望塔からあずまやに到る園路沿いに設けられたモクセイ科林は、開園当初に緑化を目的として植栽されたスダジイ、トチノキ、クスノキなどが、そのまま混在し、これら緑化樹の繁茂にともない、本来のモクセイ科植物の生育が妨げられる状態となってきた。またこの付近は、園路沿いの植栽樹木がせり合って大きく繁り、夏季にはうす暗く感じられる程であった。(写真)



整備前

このため、モクセイ科林標本園としての統一と、観賞価値の高い植物でイメージアップを図るという視点から、ライラックを中心とした植栽に変えることとした。

実施にあたり、以下のような具体的な方針をたて、再整備を行った。

- ① 中央に「リラの小径」と名付けた観察路を設ける。観察路のふちは、小径という感じがでるよう、間伐したアカマツの丸太を使った境とする。
- ② 植栽するライラックは、苗ほ場で管理している原種のみでなく、新たに導入した園芸品種も加え、ライラック見本園として機能できるようにする。
- ③ モクセイ科に属さない樹木は、特別な種を除いて処分し、開かれた明るい空間を作る。整備後の植栽図を図、表に示す。

今後の計画として、現在広い面積を占めているヒラドツツジをライラックに植え替える、種子交換等で収集しているモクセイ科の原種を、順次植え出していく、モクセイ科林としての充実を図る、また植物がある程度育った段階で、ベンチなどを置く等を検討している。

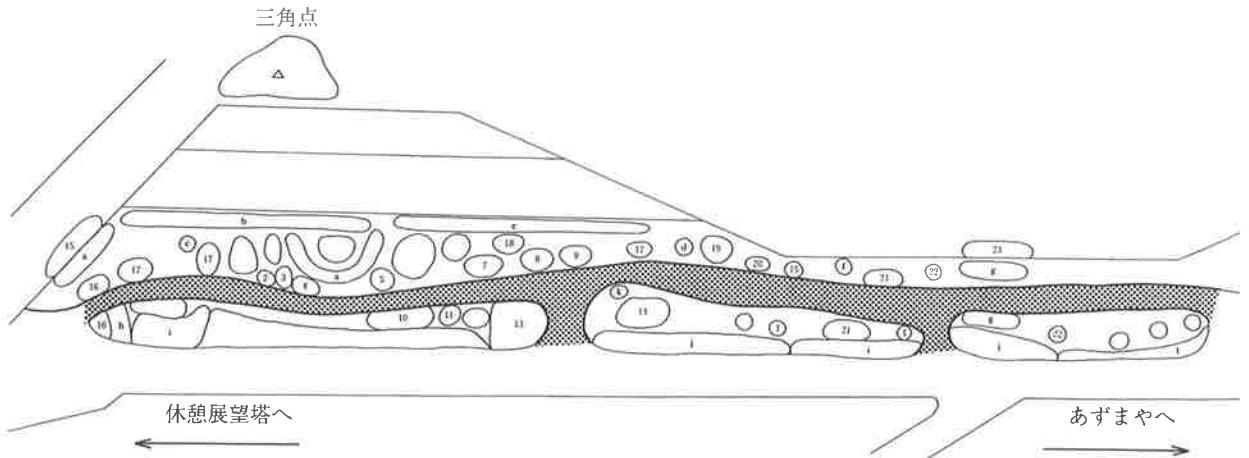


図. モクセイ科林整備後 植栽図 部分「リラの小径」

表 モクセイ科林整備後植栽植物

モクセイ科

番号	植物名	() は株数
ライラック原種		
1	<i>Syringa komarowii</i>	(15)
2	<i>S. oblata</i>	(2)
3	<i>S. villosa</i>	(5)
4	<i>S. josikaea</i>	(9)
5	<i>S. yunnanensis</i>	(3)
6	<i>S. wolfii</i>	(1)
7	<i>S. pekinensis</i>	(5)
8	<i>S. veltin</i>	(6)
9	<i>S. tigerstedtii</i>	(6)
ライラック園芸品種		
10	‘エスター・スターレー’	(8)
11	‘レオン・シモン’	(3)
12	‘ジュールス’	(2)
13	‘クラークス・ジャイアント’	(8)
14	‘エキザンソリス’	(9)
その他		
15	ヒイラギモクセイ	
16	レンギョウ ‘ピアトリクス・ファランド’	
17	レンギョウ	
18	ウスギモクセイ	
19	オリーブ	
20	オウバイ	
21	キンケイ	
22	ヒトツバダコ	
23	オオバイボタ	
24	ヒイラギ	

その他の科

記号	植物名
a	サザンカ
b	カナメモチ
c	キサザケ
d	スダジイ
e	イスノキ
f	トチノキ
g	セイヨウバクチノキ
h	ドウダンツツジ
i	ニシキギ
j	ヒラドツツジ
k	アメリカキササゲ
l	ファイリマメツゲ
m	ヤマモモ
n	イチョウ
o	クロガネモチ